



第38期 事業報告書

平成14年4月1日～平成15年3月31日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

プロフィール

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等さまざまな業種の包装ニーズに的確に応えて液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に集中・特化させ、独自のシステムを構築することにより、トップブランドとしての地位を築いています。

目次

プロフィール	1
決算ハイライト	1
社長からのメッセージ	2
特集：食品メーカーの真のニーズに応える	3
ひとめでわかる大成ラミック	5
トピックス	7
単体財務諸表	8
会社概要	11

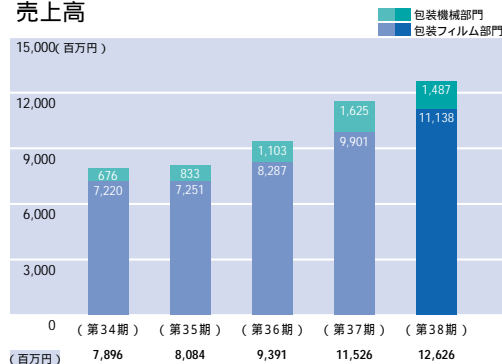
表紙の洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。

決算ハイライト

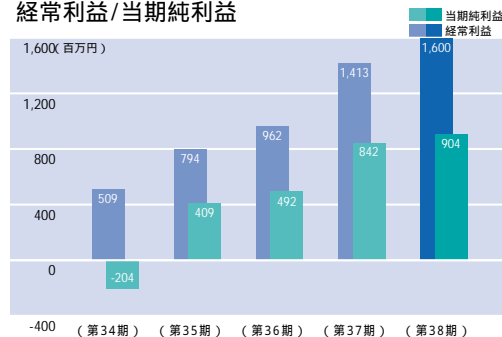
（単位：百万円）

科目	第38期 (平成14年4月1日～ 平成15年3月31日)	第37期 (平成13年4月1日～ 平成14年3月31日)	前期比
売上高	12,626	11,526	9.5%
営業利益	1,678	1,473	13.9%
経常利益	1,600	1,413	13.2%
当期純利益	904	842	7.4%
一株当たり当期純利益(円)	149.31	168.49	19.18
一株当たり配当金(円)	50.00	42.00	8.00
株主資本利益率(ROE)(%)	13.61	18.83	5.22ポイント
総資本経常利益率(ROA)(%)	15.19	17.08	1.91ポイント

売上高



経常利益/当期純利益





代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第38期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績

当期におけるわが国経済は、世界的な株価の下落や米国経済の先行き懸念、わが国銀行の不良債権処理の不透明感、デフレ経済の進行、加えてイラク戦争の世界経済に悪影響を及ぼす懸念などから環境は一段と厳しさを増しています。一方、当社の主力得意先である食品業界でもさまざまな問題が起き、消費者の「食」に対する信頼は依然として厳しいものになっています。

このような状況のなか、当社は、包装フィルム部門におきましては、引続き製品の高品質と短納期・少ロット多品種生産体制を強化し、第4四半期には本社新工場の建屋・付帯設備が完成し、第1期増産ラインのフル稼働による内製化率の引上げなどを積極的

に進めました。また、包装機械部門におきましては、リピートオーダーに加え新規採用先の受注も獲得してまいりましたが、当期の前半に起きました食品業界の諸問題から設備投資計画の見直し・延期が相次ぎ、販売台数が伸び悩みました。

その結果、売上高は126億26百万円（前期比9.5%増）となり、経常利益は16億円（同13.2%増）、当期純利益は9億4百万円（同7.4%増）と当社史上最高の増収増益となりました。

今後の経営戦略

当社が主力とする食品業界においては、少子・高齢化社会の到来とともに、内食・中食・外食と食機会の多様化が進み、食品の安全・安心・健康はもとより、利便性、低価格にこだわる消費志向が一層厳しくなっております。

このような状況のなか、包装フィルム部門では、短納期・少ロット生産体制を推し進め、更に本社新工場の第2期増産ラインの計画を策定し、低コスト・短納期一貫製造ラインの構築により売上・利益の拡大を目指してまいります。一方、包装機械部門では「NT-DANGAN大容量充填タイプ」の拡販、「ノンテープ・ジョイント」「自動フィルム繋ぎ装置」等の量産化を図ります。これらによりユーザーの皆さまへの真の生産性向上に貢献するトップブランドの高速充填機にしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月

代表取締役社長

木村 登

食品メーカーの 真のニーズに応える

当社は、液体小袋包装フィルム市場250億円の約3割のシェアを占めるトップメーカーです。液体・粘体用フィルムは、軽量性と高機能化によりマーケットは年々拡大していますが、お客さまの注文は小口から大口まで多種多様。そのような一つひとつの注文に短納期でお応えする。それが大成ラミックの強みです。

短納期

コンビニエンスストアの店頭に並ぶ弁当の多くには、当社の液体・粘体小袋が使用されています。当社のお客さまの大半は食品メーカーで、大手即席麺メーカーから全国の地元食品メーカーまで約600社以上に及んでいます。これらの食品に使用されるフィルムには、安全性や衛生管理など品質への高い信頼性に加え、充填するものの鮮度を保つために短納期が重要となります。

当社は、液体・粘体用ラミネートフィルムに経営資源を集中し、顧客のあらゆるご要望にお応えできる技術力と経験を長年培ってきました。その結果、全国の食品メーカーからの少ロット注文も、大口受注と同コストで生産し短納期でお届けできる体制を確立しました。

さらに、顧客のさらなる短納期の要望に応える

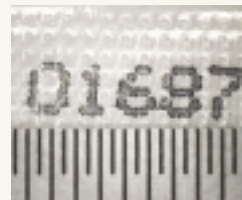


注目商品

「NT-DANGAN」搭載 インクジェットプリンター

食品の安全性を確保するためには、賞味期限や製造年月日などー商品ごとの細かな管理が重要です。当社は液体小袋の製造において、トレーサビリティ（生産の履歴を追跡する）の考えを導入した新しい生産システムを開発・提案しています。

液体小袋はその性質上、製品の中に同梱されるため、液体小袋の表面に製造年月日や製造番号等を印刷することは、食品衛生上好ましくありません。そこで当社は、ベースフィルムに対してインクジェットプリンターで裏印字し、その印字部分をサンドイッチにして封じ込める画期的な技術を開発しました。（特許番号：第2820373号）



封じ込められた印字部分



サンドイッチプリントの断面図



食品に添付されている賞味期限付液体小袋

ため、2003年2月に新工場を建設し、生産能力を拡充しました。

多品種

各種弁当に添付されるミニ醤油・ソース・ドレッシング・マヨネーズ・ケチャップ、お刺身についてくるミニわさび・しょうが、コンビニめんつゆ、納豆のたれ・カラシ、チルド麺・冷凍麺のつゆ、各種調味料のつゆ・たれ・汁…

当社が充填する液体・粘体は多種多様にわたり、色・デザイン・サイズ、機能性、フィルム構成の違いなど千差万別で、受注・生産する年間の種類は1万アイテムを超えます。これらをいかに効率よく低コストで製造していくかが当社の生産技術力です。

また、液体包装フィルムは、容器の軽量化や環境にやさしい包装パッケージとしてその使用領域はますます広がっていきます。



ひとめでわかる大成ラミック

包装フィルム部門

【事業内容】主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、練りわさび・からし、ドレッシング等を入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレットリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

当期の前半は「アレルギー表示」「プラマーク表示」などの包装資材の表示変更に伴う新版・改版需要が旺盛に発生し、その受注をフルに享受しました。また、コンビニエンスストア・大手流通の夏用食品・お弁当に添付されている麺つゆ、だし、たれなどのシェア拡大が進みました。

当期の後半は、「おでん汁」「なべものスープ」などの秋冬もののアイテムが主体となり、春夏ものよりアイテム数が減り、製品単価は下落傾向にありましたが、ラーメンスープ、納豆のたれ、マス

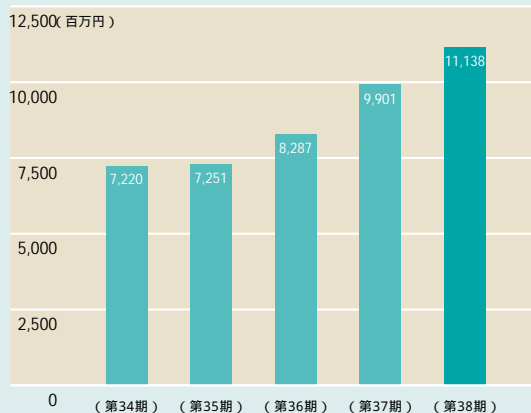
タード、ドレッシングを中心に全国の得意先をきめ細かく訪問し、拡販に努めました。

以上の結果、当期の包装フィルム部門の売上高は前期比125%増の111億38百万円となりました。



高速充填用フィルム

包装フィルム部門売上高推移



トータルソリューション戦略



1. ユーザーにとって、充填機は設備投資であり、充填機導入後はフィルムの一括受注が見込める
2. フィルム規格の統一・集約化による生産性の向上を図り、コスト競争力を強化

包装機械部門

【事業内容】当社と日本精機株式会社が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカー向けなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれ等の少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

デフレ経済の影響で、個人消費が停滞しているなか、食品業界は比較的安定していると言われてきましたが、昨春以来の相次ぐ問題の影響により、先行きの不透明感が一層強まりました。

このような状況のなか、当社的高速液体自動充填機「NT-DANGAN」も、ユーザーの皆様の設備投資計画の見直し・延期などが相次ぎ、

売上高は前期の実績を下回りました。

以上の結果、当期の包装機械部門の売上高は前期比8.4%減の14億87百万円となりました。

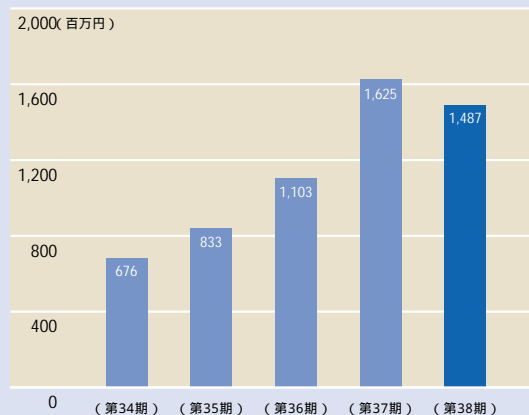


高速液体自動充填機「NT-DANGAN TYPE」



3. 機械とフィルムの一元責任によるクイックレスポンス
4. 機械とフィルムの価値連鎖を追求した研究開発
5. トップブランドとしての製品に対する顧客満足度の追求

包装機械部門売上高推移



TOPICS 1

本社新工場が完成

本社新工場が2003年2月に完成し、4月10日に竣工式を行いました。延べ床面積は8,853m²、生産能力は完成前に比べ35%増強されました。

新工場建設にかかった設備投資の総額は16億2,800万円で、昨年4月の東京証券取引所市場第二部上場時に調達した資金と同年12月の増資により調達した資金の一部が工場建設と生産ライン設備の資金に充てられました。

これまででは生産設備が不足していたことから、休日稼働とフィルム生産の一部を外部への委託で対応

していましたが、新工場の稼働により内製化を進めることができました。また、全工程一貫製造システムを構築することにより、少ロット、短納期の生産能力を一層高めることが可能になりました。



新工場写真

TOPICS 2

東京証券取引所市場第一部に指定



当社は、2002年4月12日に東京証券取引所市場第二部に上場して10カ月半余りの2003年3月

東京証券取引所市場第一部指定記念写真

3日に同市場第一部指定を果たすことができました。株主の皆さまをはじめ、関係各位のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今後は一層、独自の包装技術を通じ真の顧客満足度を追求し、収益性を重視した新製品開発により競争力を高めるとともに、資源の有効活用とリサイクルにつながるフィルムの減肉化を推進することで環境と社会に貢献する企業を目指します。

TOPICS 3

株主優待制度を新設

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈いたします。

毎年3月31日と9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」

（4,000円相当）をお届けいたします。

なお、発送は7月上旬を予定しております。



食品詰合せ写真

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第38期 平成15年 3月31日現在	第37期 平成14年 3月31日現在	科目	第38期 平成15年 3月31日現在	第37期 平成14年 3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	7,606	5,386	流動負債	3,836	3,538
現金及び預金	2,713	566	買掛金	2,107	1,925
受取手形	1,187	1,457	短期借入金	-	530
売掛金	2,337	2,074	一年内返済予定長期借入金	-	70
棚卸資産	1,199	1,163	未払金	1,218	368
その他	173	127	未払法人税等	352	434
貸倒引当金	4	2	賞与引当金	145	115
固定資産	4,833	3,243	その他	14	94
有形固定資産	4,254	2,681	固定負債	153	259
建物	2,271	923	長期借入金	-	102
機械及び装置	761	611	退職給付引当金	97	102
土地	835	844	その他	55	54
その他	386	302	負債合計	3,989	3,797
無形固定資産	130	113	資本の部		
投資その他の資産	447	448	資本金	2,408	1,000
投資有価証券	238	234	資本準備金	-	1,243
その他	226	225	利益準備金	-	165
貸倒引当金	17	11	その他の剰余金	-	2,427
資産合計	12,440	8,630	資本剰余金	2,896	-
			利益剰余金	3,149	-
			その他有価証券評価差額金	3	2
			資本合計	8,450	4,832
			負債及び資本合計	12,440	8,630

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

資産

総資産は、前期末に比べ38億10百万円増加し124億40百万円となりました。これは東証二部上場時および2002年12月に実施した公募増資により現金及び預金が増加したことと、本社新工場建設に伴い有形固定資産（建物）が増加したことが主な要因です。

負債 / 株主資本

当期は前期末までの借入金7億2百万円を全額返済し当期末の有利子負債はゼロになりました。株主資本は公募増資により前期末に比べ36億18百万円増加し84億50百万円となり、当期末の株主資本比率は前期末に比べ11.9ポイント上昇し67.9%となりました。

単体財務諸表

損益計算書

(単位:百万円)

科目	第38期 (平成14年4月1日 - 平成15年3月31日)	第37期 (平成13年4月1日 - 平成14年3月31日)
売上高	12,626	11,526
売上原価	9,203	8,460
売上総利益	3,422	3,066
販売費及び一般管理費	1,744	1,592
営業利益	1,678	1,473
営業外収益	16	18
営業外費用	94	77
経常利益	1,600	1,413
特別利益	33	94
特別損失	66	32
税引前当期純利益	1,567	1,475
法人税、住民税及び事業税	692	655
法人税等調整額	29	21
当期純利益	904	842

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

売上高の内訳

(単位:百万円)

科目	第38期 (平成14年4月1日 - 平成15年3月31日)	第37期 (平成13年4月1日 - 平成14年3月31日)
包装フィルム部門	11,138	9,901
包装機械部門	1,487	1,625
販売台数(台)	58	68
売上高	12,626	11,526

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

収益構造

当期の売上高は、包装フィルム部門の売上が好調に推移し、前期比9.5%増の126億26百万円となりました。売上高原価率は、量的拡大を背景に原材料等のコストダウンを行い、前期比0.5ポイント改善しました。

販売費及び一般管理費は同9.5%増加しました。これは売上増加に伴い物流費等が増加したことが主な要因です。

以上の結果、営業利益は同13.9%増の16億78百万円となり、売上高営業利益率は0.5ポイント増の13.3%となりました。経常利益は13.2%増の16億円となり、売上高経常利益率は同0.4ポイント増の12.7%となりました。

利益配分

当社は、利益配分と株主資本当期純利益率の向上を経営目標の重要ポイントと位置付けております。配当性向につきましては、当期より前期比5ポイント上げ30%を目標としました。今後はこれを向上させ、かつ継続するよう努めてまいります。

内部留保金につきましては、中長期的観点から、今後の競争力強化のため設備投資に充当し、さらに事業拡大のため有効に活用していく方針であります。

以上の方針のもと、当期末の一株当たり配当金を東証一部指定記念配当5円を含め30円といたしました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第38期 (平成14年4月1日 - 平成15年3月31日)	第37期 (平成13年4月1日 - 平成14年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,281	180
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,424	176
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,982	534
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増加 減少 額	839	176
現金及び現金同等物の期首残高	548	725
会社分割に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	0
現金及び現金同等物の期末残高	1,388	548

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

次期の見通し

(単位:百万円)

科目	第39期予想 (平成15年4月1日 - 平成16年3月31日)
売上高	13,600
包装フィルム部門	12,100
包装機械部門	1,500
営業利益	1,667
経常利益	1,659
当期純利益	954
一株当たり当期純利益(円)	148.02
一株当たり配当金(円)	45.00
	うち期末25.00円

注：1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

2. 上記の予想は、第38期決算発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、さまざまな要因の変化により実際の業績は、これらの予想数値と異なる可能性があります。

キャッシュ・フロー計算書

営業活動の結果得られた資金は、主に税引前当期純利益や減価償却費の増加により12億81百万円となりました。

投資活動の結果使用した資金は、本社新工場建設に係る有形固定資産の取得や定期預金の預入れによる支出により24億24百万円となりました。

財務活動の結果得られた資金は、公募増資による収入により19億82百万円となりました。

以上の結果、当期末における現金及び現金同等物期末残高は、前期末比8億39百万円増の13億88百万円となりました。

次期の見通し

次期の見通しにつきましては、デフレ経済や個人消費の落ち込みにより、厳しい状況が続くと思われまます。

このような状況のなか、本年2月に完成した新工場の第1期増産ラインにより外注生産の内製化を図っております。さらに第2期増産ラインを策定し、今後の受注増に対応するとともに、徹底的なコストダウン、品質向上、短納期・少ロット生産体制を推し進め、売上・利益の拡大を目指してまいります。

次期の業績見通しにつきましては、売上高136億円(当期比7.7%増) 経常利益16億59百万円(同3.7%増) 当期純利益9億54百万円(同5.5%増)を見込んでおります。

会社概要 (平成15年3月31日現在)

社名 大成ラミック株式会社 (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所在地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
代表者 代表取締役社長 木村 登
設立 昭和41年3月22日
資本金 24億860万円
事業内容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズ等の開発製造販売
 高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

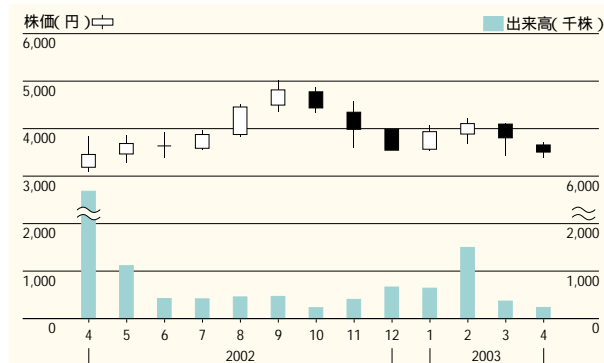
社員数 257名 (男子223名 女子34名)
主な事業所 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)
営業所 東北、仙台、名古屋、福岡

株主メモ

決算期 3月31日
定時株主総会 毎年6月
利益配当金 利益配当金 毎年3月31日
受領株主確定日 中間配当金 毎年9月30日
1単元の株式数 100株
名義書換代理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 (郵便物送付および電話照会先) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (住所変更等用紙のご請求) 0120-175-417
 (その他のご照会) 0120-176-417

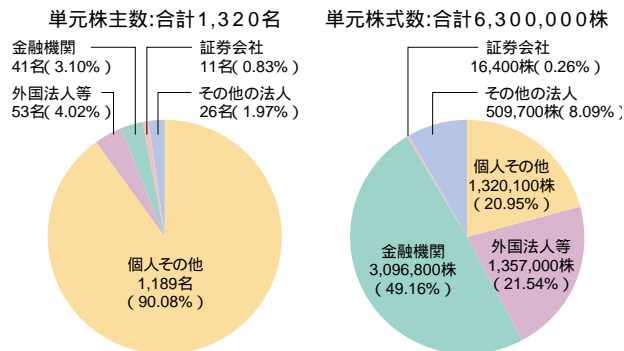
同取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法 日本経済新聞に掲載いたします。ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表及び損益計算書に係る情報は、
<http://www.lamick.co.jp/kessan/index.html>
 において提供いたします。

株価 / 出来高の推移



所有者別株式分布状況 (平成15年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 20,000,000株
 発行済株式総数 6,300,000株
 株主数 1,320名



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い換えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れた当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

お問い合わせ 総務部 IR担当: TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
 ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>
 本報告書は、100%再生紙を使用しています。